

## 飛騨市鳥獣被害対策研修会の開催

### 【飛騨森林管理署】

飛騨市では、本年、クマの目撃情報と捕獲数が前年に比べて大きく増加しました。このため、クマによる人身被害の発生を未然に防ぐことを目的に、9月28日、地元市民をはじめ、猟友会員など約50名が参加し、飛騨市鳥獣被害対策研修会を開催しました。

研修会では、「クマの生態と被害対策」について、NPO法人wildlife Service Japan 理事長の森元萌弥氏の講演を行い、「クマの生態として、木の実の不作の年にクマ活動範囲が広がり人間との遭遇回数が増えるが、単年度で収束する」「クマにとって人は、とても怖い存在で接近を避けようとするので、鈴、ラジオを持ち、複数で山に入るように」と、改めて注意を呼びかけました。また、草やヤブの刈り払い、電気柵の設置など、環境改善の必要性と人身事故のリスクについて、事例を交えて述べられました。



研修会の様子

参加者からは、深刻な被害の実態や有害駆除の現状が述べられ、森元氏から、地道な対策の重要性についてアドバイスをいただきました。

今後も引き続き、クマによる人身事故防止を推進していきます。

## 民国連携現地研修会の開催

### 【飛騨森林管理署】

10月30日、高山市荘川町一色地域において『高山市一色・中山地域共同施業団地』の関係機関を対象に現地研修会を開催しました。

最初に一色国有林現場では、今年度実行している生産事業において、列状間伐実行箇所を視察し、請負者の白鳥林工から事業実行した上での現場サイドから長所・短所について説明されました。協定関係者からは、「植栽列で実行したことはあるが、一定の距離ごとに列間隔を決め、間伐実行はしたことがない」、「低コストで搬出可能である」、「自社のハーベスタは、現場でどのように活用されているのか」、「伐倒木は、どのように搬出したか」といった感想や質問が出されました。



国有林の列状間伐実行箇所の視察

次に民有林での作業路の作設現場では、請負者の飛騨高山森林組合から現場で作設するに当たっての注意点、今後の施業計画、路網計画などが説明されました。参加者からは、作業道作設における補助金制度活用方法、路網密度の設定など、工事への関心の高さが伺える意見も多く出されました。

今回の研修会では、それぞれの機関で森林整備を進める中で、技術・情報交換ができました。今後も、民国連携による研修会等を通じて情報交換を行うことにより、効率的・効果的な林業技術の向上と情報発信に努めていきたいと考えています。